病院名	県立二戸病院
研修科目名	小児科

小児科

≪プログラムの名称≫

選択必修科目　小児科臨床研修プログラム

Ⅰ　一般目標

日常の診療で頻繁に遭遇する小児科疾患に適切に対応するために、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（知識・技能・態度）を修得すること。

Ⅱ　行動目標

1）小児の成長・発達と小児科診療の特性を学ぶ。
2）頻度が高い症候の鑑別診断と対処法を学ぶ。
3）医療面接、診察、診断、対処の方法を学ぶ。

Ⅲ　経験目標

頻度が高い症候の鑑別診断と対処法、および保護者への対応と支援の実際を学ぶ

1）小児科診療の特性
① 年齢による疾患の特性を学ぶ。
② 診察に協力を得るため、子供をあやすなどの行為を習得する。
③ 小児の薬用量、補液量、検査の基準値に関する知識を習得する。
④ 乳幼児の検査に不可欠な鎮静法、採血、血管確保などを経験する。
⑤ 救急診療、時間外診療を経験する。

2）面接、指導
① 小児、ことに乳幼児に不安を与えないように接する。
② 親（保護者）から、発病の状況、患児の生育歴、既往歴、予防接種歴などを要領良く聴取する。
③ インフォームド･コンセント、インフォームド･アセントに配慮し対応する。

3）診察
① 小児の正常な身体発育、精神運動発達、生活状況を理解し判断する。
② 小児の年齢差による特徴を説明する。
③ 視診により顔貌と栄養状態を判断し、主要症状の有無を知る。
④ 乳幼児の口腔、咽頭、鼓膜の視診ができる。
⑤ 発熱のある患児の診察を行い、日常病の診断と治療ができる。
⑥ 熱性けいれんの処置ができる。
⑦ 咳をする患児では、咳の出方と呼吸困難、喘鳴の有無などから、クループ、細気管支炎、気管支喘息の鑑別診断ができる。
⑧ 発疹のある患児では、発疹の所見を述べることができ、日常病（麻疹、風疹、突発性発疹、伝染性紅斑、手足口病、単純性ヘルペス感染症、水痘、帯状疱疹、伝染性単核球症、マイコプラズマ感染症、溶連菌感染症）の鑑別ができる。
⑨ 下痢の患児では、便の性状（粘液、血液、膿など）を述べることができる。
⑩ 嘔吐や腹痛のある患児では、重大な腹部所見を述べることができる。
⑪ けいれんや意識障害のある患児では、髄膜刺激症状について述べることができる。
⑫ 脱水症の的確な診断と原因について調べることができる。
⑬ 新生児の日常的なケア（保育環境、必要水分量の計算、栄養管理、体重測定、バイタルサイン、黄疸の評価など）ができる。
⑭ 新生児の採血ができる。
⑮ 新生児の光線療法の必要性の判断ができる。

4）次の手技、処置を実施する。
① 採血（毛細血管、静脈血、動脈血）ができる。
② 注射（静脈、筋肉、皮下、皮内）ができる。
③ 輸液、輸血ができる。
④ 採尿、導尿ができる。
⑤ 坐薬を挿入できる。
⑥ 浣腸ができる。

⑦　注腸、高圧浣腸ができる。
⑧　胃洗浄ができる。
⑨　腰椎穿刺ができる。
⑩　吸入療法ができる。

５）薬物療法
①　小児の年齢に応じた薬用量を理解し、それに基づいて一般薬剤（抗生剤等）を処方することができる。
②　乳幼児に対する薬剤の服用、使用について看護師に指示し、親（保護者）に指導することができる。
③　年齢、疾患に応じて補液の種類、量を決めることができる。

６）小児救急
①　喘息発作の応急処置ができる。
②　脱水症の応急処置ができる。
③　けいれんの応急処置ができる。
④　腸重積を診断し、整復治療ができる。
⑤　人工呼吸、心臓マッサージなどの蘇生術を実施することができる。
⑥　新生児仮死の蘇生術を実施できる。

Ⅳ　研修スケジュール

【小児科：８週間の例】　　（都合により若干の変更もあります。）

	月	火	水	木	金
第1週～7週					
ＡＭ	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察
ＰＭ	回診､ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	回診､ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	慢性疾患外来	乳児検診	回診､ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ
第8週					
ＡＭ	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察
ＰＭ	回診､ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	回診､ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	慢性疾患外来	乳児検診	総合ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ